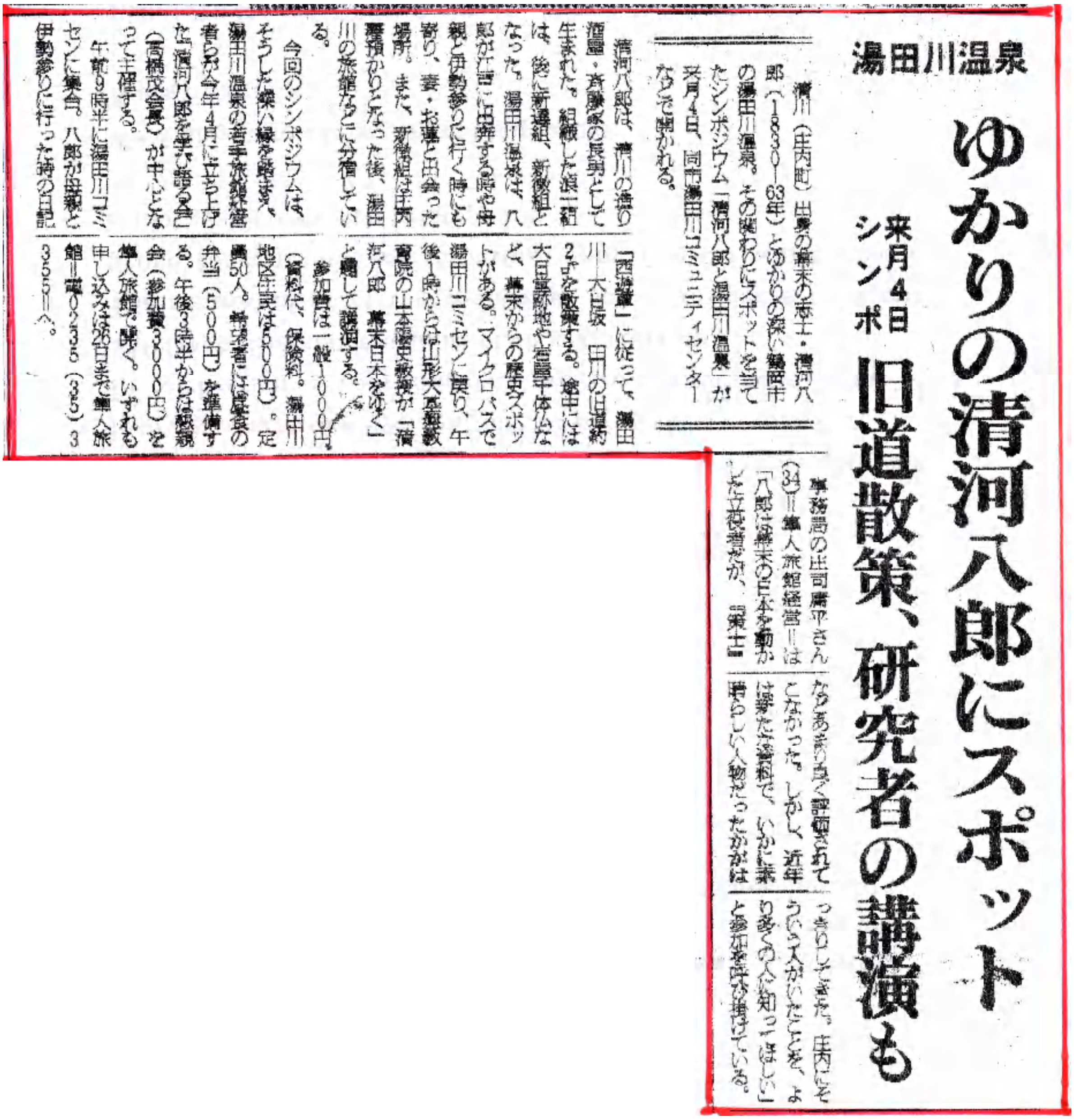
庄内日報 2013/10/18(1 面)に掲載！



湯田川温泉

ゆかりの清河八郎にスポット

来月4日シンポ　旧道散策、研究者の講演も

清川（庄内町）出身の幕末の志士・清河八郎（1830—63年）とゆかりの深い鶴岡市の湯田川温泉。その関わりにスポットを当てたシンポジウム「清河八郎と湯田川温泉」が来月4日、同市湯田川コミュニティセンターなどで開かれる。

清河八郎は、清川の造り酒屋・斉藤家の長男として生まれた。組織した浪士組は、後に新選組、新徴組となった。湯田川温泉は、八郎が江戸に出奔する時や母親と伊勢参りに行く時にも寄り、妻・お蓮と出会った場所。また、新徴組は庄内藩預かりとなった後、湯田川の旅館などに分宿している。

今回のシンポジウムは、そうした深い縁を踏まえ、湯田川温泉の若手旅館経営者らが今年4月に立ち上げた「清河八郎を学び語る会」（高橋茂会長）が中心となって主催する。

午前9時半に湯田川コミセンに集合。八郎が母親と伊勢参りに行った時の日記「西遊草」に従って、湯田川—大日坂　田川の旧道約2㌔を散策する。途中には大日堂跡地や宮田千体仏など、幕末からの歴史スポットがある。マイクロバスで湯田川コミセンに戻り、午後1時からは山形大基盤教育院の山本陽史教授が「清河八郎　幕末日本をゆく」と題して講演する。

参加費は一般1000円（資料代、保険料。湯田川地区住民は500円）。定員50人。希望者には昼食の弁当（500円）を準備する。午後3時半からは懇親会（参加費3000円）を隼人旅館で開く。いずれも申し込みは26日まで隼人旅館＝電0235（35）3355＝へ。

事務局の出司庸平さん（34）＝隼人旅館経営＝は「八郎は幕末の日本を動かした立役者だが、『策士』などあまり良く評価されてこなかった。しかし、近年は新たな資料で、いかに素晴らしい人物だったかがはっきりしてきた。庄内にそういう人がいたことを、より多くの人に知ってほしい」と参加を呼び掛けている。